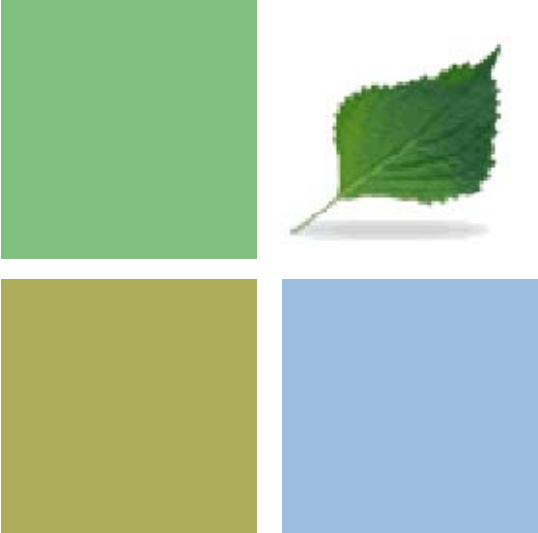


証券コード4526



理研ビタミン株式会社



2009年3月期 第2四半期決算説明会

2008年11月14日

www.rikenvitamin.jp

2009/3月期 第2四半期決算の概要

代表取締役 専務取締役
経営企画部長 山下 隆



セグメント、部門別売上高(連結)



(億円)

セグメント	部門	08/3月期 第2Q		09/3月期 第2Q		前期比
		売上高	構成比	売上高	構成比	
食品事業		341	84.8%	341	83.0%	99.9%
	家庭用食品	95	23.7%	92	22.6%	97.2%
	業務用食品	58	14.4%	55	13.6%	96.4%
	加工食品用原料	91	22.8%	82	20.1%	90.3%
	食品用改良剤	96	23.9%	109	26.7%	113.9%
化成品事業		31	7.7%	36	8.9%	117.7%
ビタミン・その他事業		30	7.5%	33	8.1%	110.5%
合 計		402	100.0%	410	100.0%	102.1%



セグメント別増減 「食品事業」



家庭用食品

前年同期比 $\Delta 2.6$ 億円

- わかめ $\Delta 3.0$ 億円 (うち生食めかぶ $\Delta 2.3$ 億円)
- 調味料 $+0.9$ 億円 (うち素材力 $+0.3$ 億円)
- ドレッシング $+0.0$ 億円 (「青じそ」の落ち込みを「青じそハーブ&レモン」他でカバー)

業務用食品

前年同期比 $\Delta 2.1$ 億円

- わかめ $\Delta 2.0$ 億円
(中国出荷規制の影響)

加工食品用原料

前年同期比 $\Delta 8.9$ 億円

- 青島福生品(水産加工事業) $\Delta 7.2$ 億円
(販売形態の転換⇒加工賃ベースへ)

食品用改良剤

前年同期比 $+13.4$ 億円

- 国内 $+4.6$ 億円 (積極的な新規需要開拓により)
- 海外 $+8.8$ 億円 (国内・海外ともに伸長)



セグメント別増減 「化成品事業」、「ビタミン・その他事業」



化成品事業

前年同期比 +5.5億円

- 国内+2.2億円
- 海外+3.3億円 (欧州・アジアを中心に着実に伸長)

ビタミン・その他事業

前年同期比 +3.1億円

- ビタミンE
☆サプリメント用途の食品用を中心に伸長。
- 電子精密部品関連
☆半導体業界の低迷続くも、前年実績はクリア。

09/3月期 第2Q決算ハイライト (連結)



	08/3 第2Q		09/3 第2Q		前期比(%)
	売上高(億円)	売上比(%)	売上高(億円)	売上比(%)	
売上高	402	—	410	—	102.1
粗利益	119	29.6	115	28.2	97.3
販管費	101	25.2	99	24.3	98.5
営業利益	17	4.4	16	3.9	90.5
経常利益	18	4.7	17	4.1	90.7
純利益	10	2.7	9	2.3	86.8

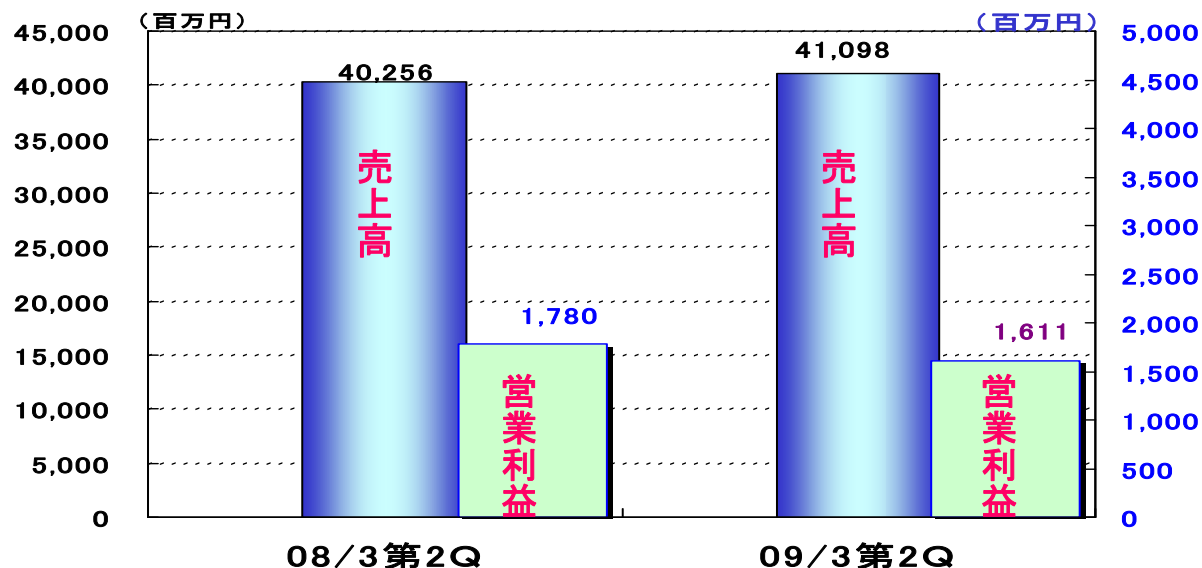
業績予想
公表値(億円)

売上高 **410**

営業利益 **15**

経常利益 **15**

純利益 **8.5**



(億円)

《08 / 3 第2Q》

	欧 米	アジア他	合 計
食 品	32	19	51
化成品	2	5	8
ビタミン他	1	1	2
合 計	36	25	62

《09 / 3 第2Q》

	欧 米	アジア他	合 計
食 品	31	25	56
化成品	3	7	11
ビタミン他	1	1	2
合 計	37	33	71

前年同期比
+8億円
(114.4%)



貸借対照表の主な増減科目(連結)



〔資産の部〕

(億円)

科 目	08/3月期 期 末	09/3月期 第2Q	増 減 前期末差
流 動 資 産	444	464	+20
現金及び預金	95	99	+3
受取手形及び売掛金	189	194	+5
たな卸資産	131	138	+7
その他	28	32	+4
固 定 資 産	420	411	△8
有形固定資産	275	264	△11
無形固定資産	10	9	△0
投資その他	134	137	+3
合 計	865	876	+11



貸借対照表の主な増減科目(連結)



〔負債・純資産の部〕

(億円)

科 目	08 / 3 月 期 期 末	09 / 3 月 期 第 2 Q	増 減 前 期 末 差
流 動 負 債	2 1 7	2 2 6	+ 9
支 払 手 形 及 び 買 掛 金	8 7	9 2	+ 4
短 期 借 入 金	6 7	6 8	+ 1
未 払 費 用	3 7	3 6	△ 0
そ の 他	2 5	2 8	+ 3
固 定 負 債	6 2	5 9	△ 2
長 期 借 入 金	1 8	1 4	△ 4
そ の 他	4 3	4 4	+ 1
■ 負 債 合 計	2 7 9	2 8 5	+ 6
■ 純 資 産 合 計	5 8 5	5 9 0	+ 5
■ 合 計	8 6 5	8 7 6	+ 1 1



キャッシュフローの状況(連結)



(億円)

	08/3月期 -第2Q-	09/3月期 -第2Q-
営業活動CF	14	16
投資活動CF	△ 28	△ 10
財務活動CF	△ 5	△ 2
現金及び現金同等物 の四半期末残高	91	104

営業活動

税金等調整前四半期純利益	+16
減価償却費	+18
たな卸資産増減(△増加)	△8
法人税等支払	△5
その他	△4

投資活動

有形固定資産取得	△8
その他	△1

財務活動

短期借入金純増減(△減少)	+3
長期借入金返済	△2
配当金支払	△3
その他	△0

2009/3月期 業績見通しの概要



代表取締役社長
堺 美保

09 / 3期事業計画(連結)



	08/3月期 実 績	09/3月期 予 想	前期差 前期比
売 上 高	808	820	11 101.4%
粗 利 益	234	224	△ 10 95.6%
(対売上比)	29.0%	27.3%	
販 売 管 理 費	198	193	△ 5 97.4%
(対売上比)	24.5%	23.6%	
営 業 利 益	36	31	△ 5 85.9%
(対売上比)	4.5%	3.8%	
経 常 利 益	38	32	△ 5 85.4%
(対売上比)	4.7%	4.0%	
純 利 益	22	20	△ 2 88.6%
(対売上比)	2.8%	2.4%	

(億円)

内、**海外売上高**
142億円
(連結売上高に
占める割合17.4%)

<参考> 海外売上高推移

前 期(08/3期)

132億円 (割合16.4%)

前々期(07/3期)

125億円 (割合15.5%)

セグメント別売上計画(連結)



(億円)

セグメント	部門	08/3月期 実績		09/3月期 通期予想		前期比
		売上高	構成比	売上高	構成比	
食品事業		682	84.4%	683	83.3%	100.1%
	家庭用食品	177	22.0%	175	21.4%	98.6%
	業務用食品	115	14.3%	115	14.0%	99.3%
	加工食品用原料	189	23.5%	173	21.1%	91.2%
	食品用改良剤	198	24.6%	220	26.8%	110.6%
化成品事業		66	8.2%	74	9.0%	111.0%
ビタミン・その他事業		59	7.4%	63	7.7%	105.5%
合 計		808	100.0%	820	100.0%	101.4%



セグメント別営業利益計画(連結)

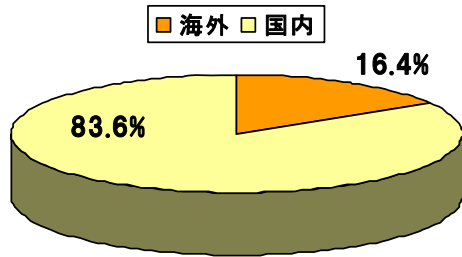


(億円)

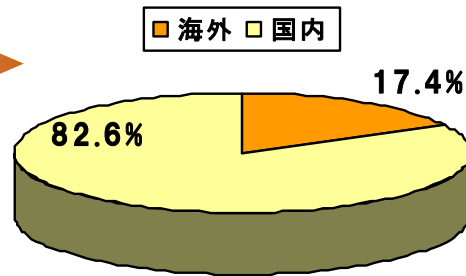
セグメント	08/3月期 実績		09/3月期 通期予想	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
食 品 事 業	682	26	683	24
化 成 品 事 業	66	4	74	3
ビタミン・その他事業	59	5	63	4
合 計	808	36	820	31

地域別売上高計画(連結)

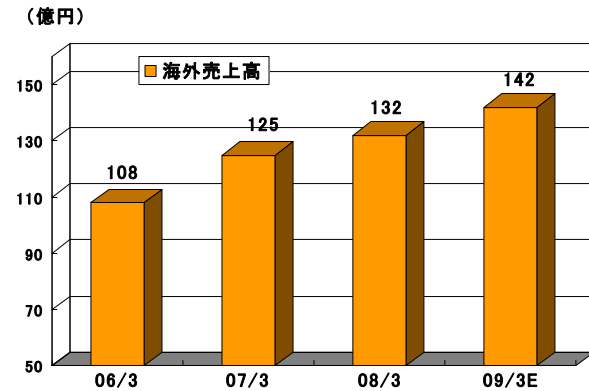
08/3月期 海外売上高比率



09/3月期 (予想)



海外売上高の推移



(億円)		
地域別	06/3月期・実績	
	売上高	構成比
欧 米	70	8.9%
アジア・その他	38	4.8%
海外・計	108	13.7%
国 内	681	86.3%
連結・合計	790	100.0%

07/3月期・実績		
	売上高	構成比
	79	9.8%
	46	5.7%
	125	15.5%
	683	84.5%
	808	100.0%

08/3月期・実績		
	売上高	構成比
	77	9.6%
	55	6.8%
	132	16.4%
	675	83.6%
	808	100.0%

09/3月期・予想		
	売上高	構成比
	74	9.1%
	67	8.3%
	142	17.4%
	677	82.6%
	820	100.0%



《1》

原材料動向

<1> 原油／穀物・油糧種子相場の価格変動

◇植物油脂：高騰→下落へ

□パーム油相場(マレーシア)の推移

2007年9月 2,500RM/t

2008年3月 4,300RM/t

2008年9月 2,400RM/t



<2> ビタミンC・国内乳製品等は、高値継続

難しい局面

「製品値上げ」施策にも影響

《2》

食品業界を取り巻くマイナス事象

相次ぐ「食の安全」を脅かす問題

「中国産食品」
マイナスイメージ

《3》

金融危機の影響

世界の金融危機

実体経済悪化

[海外]

世界経済の減速・深刻化

◇日米欧・マイナス成長見通し

◇新興国の経済状況変調

[国内]

家計／生活防衛

◇消費者/節約志向の高まり

◇日用品/食料品 購買低下

需要ダウン / 消費抑制

☆当社グループの

海外／国内双方
事業への影響懸念



当社グループの基本対応策



<1> 製品値上げの実施

<2> ◇差別化された 〔新商品〕開発

⇒ 新市場の創出

◇ 〔既存商品〕用途開発・メニュー提案

⇒ 新規需要の創造

<3> 海外事業の強化

⇒ 改良剤事業を中心に、重点エリアでの
市場開拓

<4> 原価低減

⇒ VA/VE・代替原料開発・工場経費管理
の継続的推進

<5> 経費管理の徹底

⇒ 販売促進費の効率的運用の推進

↓
下期も継続して推進
「当期の基本施策」

コア事業（海藻関連・ドレッシング・調味料/エキス・改良剤）

を中心に**付加価値・収益型製品分野**の拡大を継続推進

（１）**差別化された新商品開発で新市場創出**

（２）**用途開発／メニュー提案で既存商品のシェア・アップ**

<例> 2008年秋の新商品

**香味だれ
青じそおろし**

お肉用調味料ジャンルに

「青じそ」の新提案！



肉用調味料の
新ジャンル創出
と
「青じそ」ブランドの
シェア拡大へ！

※年間販売見込
3億円（小売ベース）

『生・販・開』一体の市場開拓

改良剤分野での川下市場への販売強化

シンガポール
天津
の
アプリケーション
センター
積極活用

生 産

マレーシア・天津
工場からの安定供給

高付加価値製品
の
販売強化

各エリアでの
市場調査に基づく
販売活動

開 発

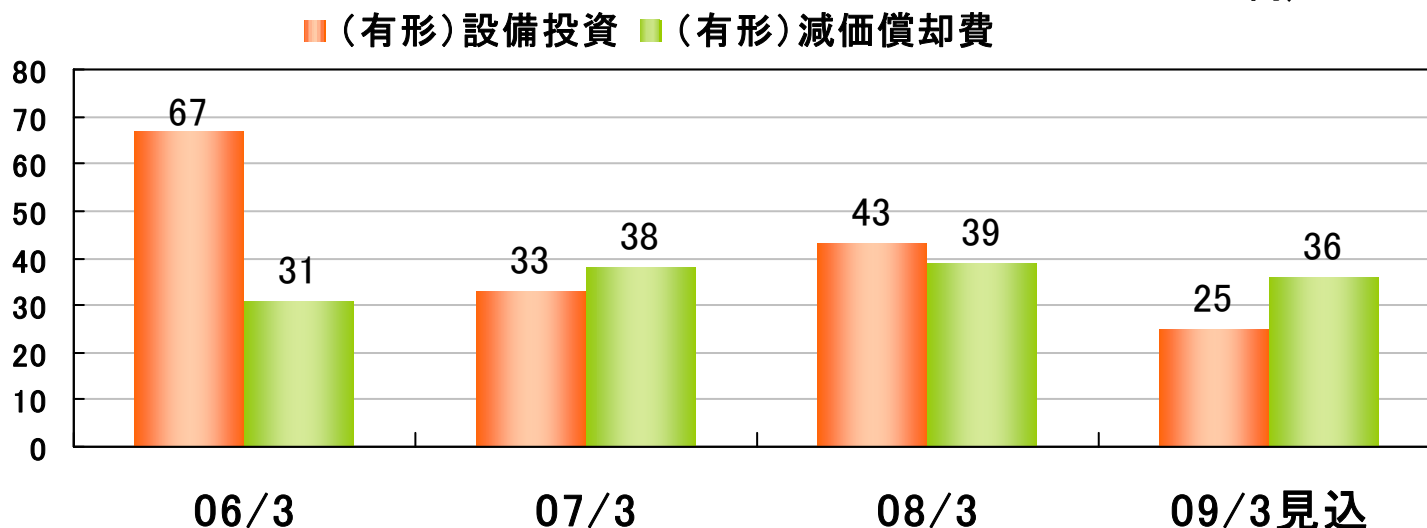
販 売



設備投資及び減価償却計画(連結)



(億
円)



◆ (有形)設備投資額 と 減価償却費

	08/3月期 (実績)	09/3月期 (当期見込み)	前期差
(有形)設備投資額	43	25	△ 18
(有形)減価償却費	39	36	△ 2

[09/3月期]
これまでの
大型設備投資の
回収に向け
本格稼働の期。

◆提携の目的

- 双方のブランドと研究開発力・技術力の融合、
共同調達など幅広い分野での協業
⇒[両社の企業価値のより一層の向上]に資する

◆業務提携の内容

- 品質保証や食の安全性に関する相互協力
- 原料及び包装資材の共同購入、共通化の検討
- 調達ルートの相互活用、共通化の検討
- 理研ビタミン商品の海外での販売促進
- キッコーマンの商品開発と販売促進における国内外の理研ビタミン・アプリケーションセンターの活用
- 両社が保有する原料を有効活用するための共同研究

◆現時点における取り組み

- [提携推進委員会]を組織
⇒上記提携内容に対応した[部会]を設置
⇒シナジー追求へ向けての検討



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

経営企画部
毛塚、相原まで
TEL 03-5275-5835

